

ヒータ電流検出器（ヒータ断線警報用）

形式：CTL

温調計のヒータ断線警報用電流検出器

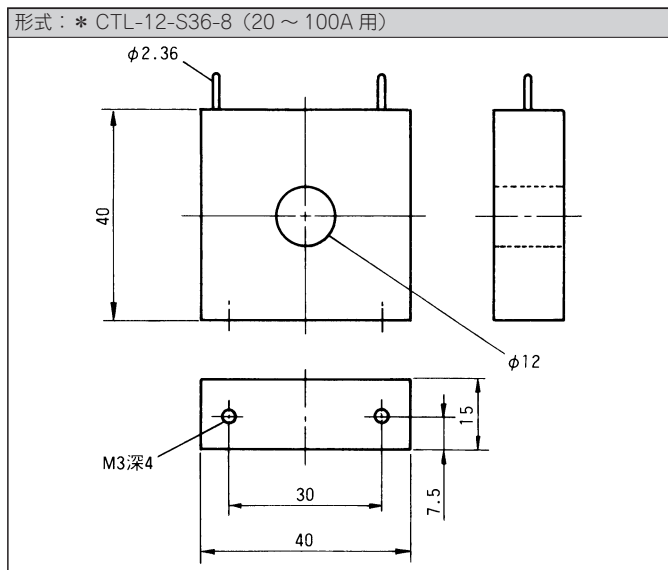
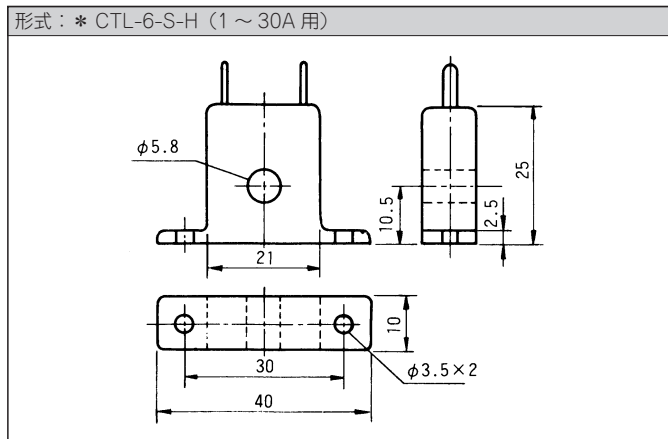
- 1～30A, 20～100A 用の 2 種類用意
- 使用電源電圧と警報動作点は温調計側で設定



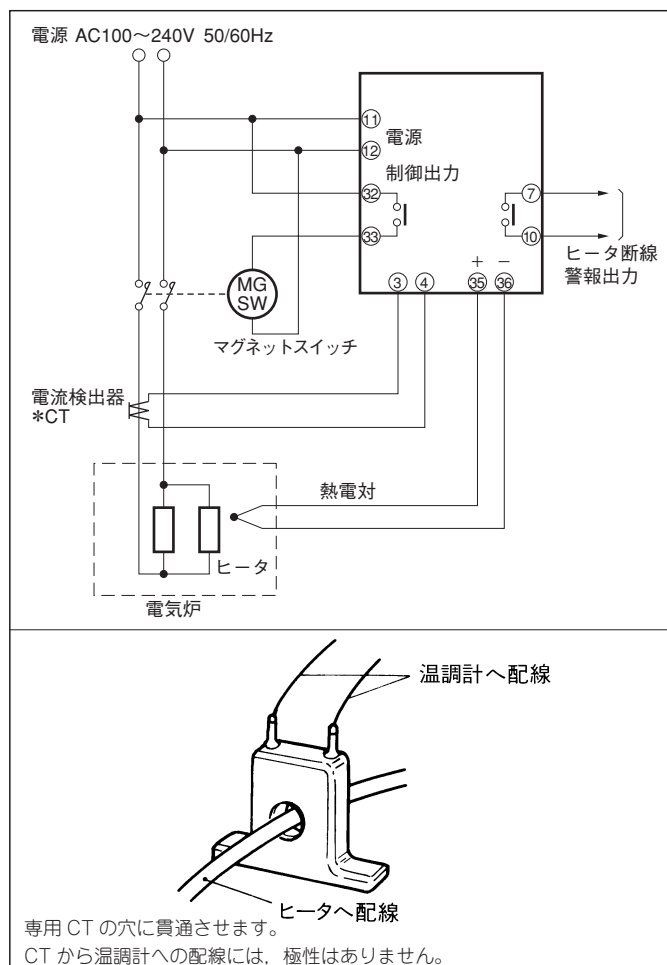
■一般仕様

	1～30A 用	20～100A 用
形式	CTL-6-S-H	CTL-12-S36-8
外形寸法 (H×W×Dmm)	25×40×10	40×40×15
貫通穴 (mm)	φ 5.8	φ 12

■外形図 (単位：mm)



■ヒータ断線警報の接続例 (形式 PXR5, PXR9)



- 使用するヒータに合わせて、温調計前面キーで「警報動作点電流」の設定を行います。
- 例) 2,000W/115V のヒータ 2 本並列で使用して、1 本が断線したことを検出しようとした場合：
 - 定格電流は 34.8A で、1 本断線状態は 17.4A となります。
 - 「警報動作点」は定格電流と断線状態の中間「26.1A」へ設定します。
- (注) 設定は定格電流値の 15% 以上としてください。
 - 15% 以内は、検出が不安定となります。
- サイリスタ位相角制御方式でヒータ制御する場合は使用できません。
- 温調計の電源電圧が AC24V の場合は、ヒータ電源線と温調計の電源線を必ず分離してください。
- 単相ヒータの場合のみ検出可能です。